

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城東中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

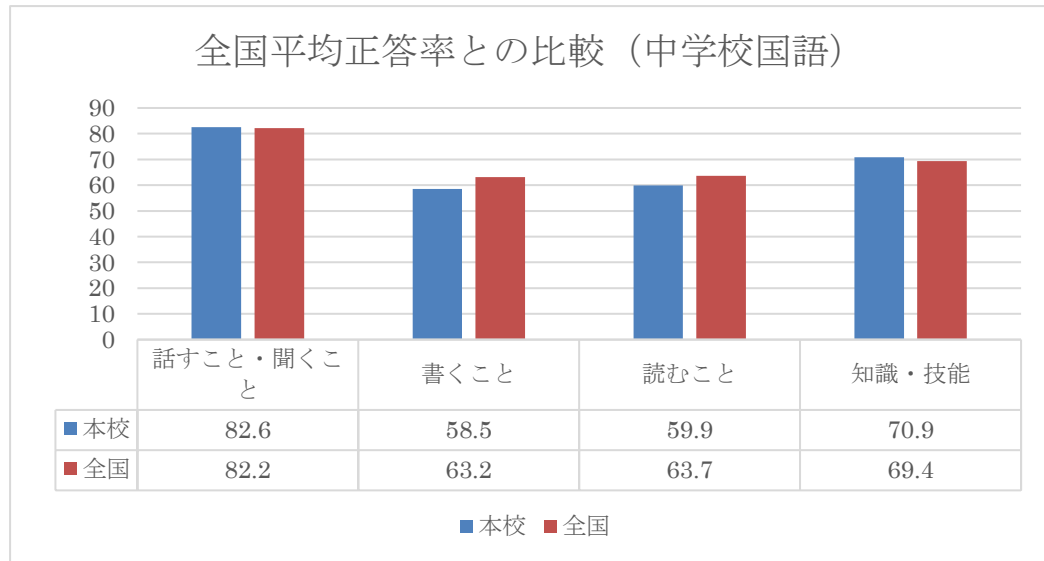
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。しかし、「読むこと」「書くこと」は、全国平均正答率を下回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 0.3 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、「書くこと」の正答率を上げることです。本校の正答率 58.5%は、県平均正答率 60.9%、全国平均正答率 63.2%を下回り、苦手になっている生徒が多くいるのがわかります。生徒が何を問われていて条件に沿ってどのように表現することがよいのかの理解が必要です。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

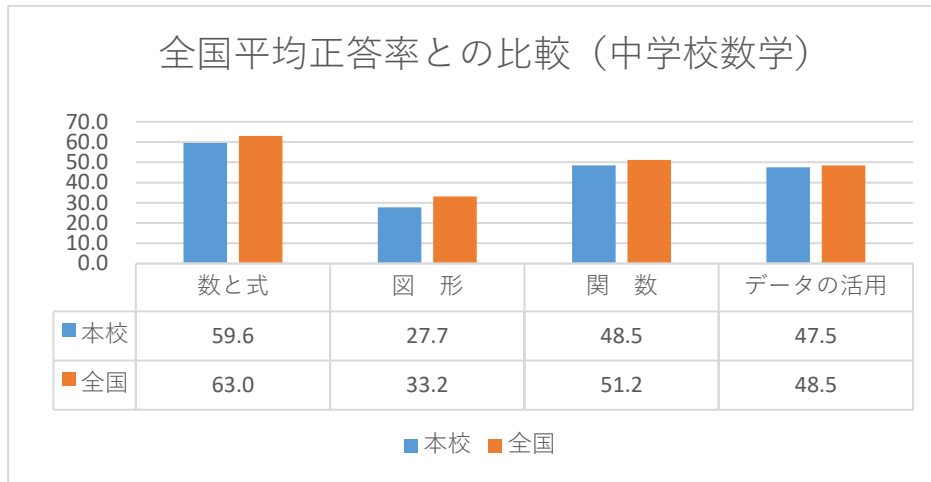
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数 学



(1) 結 果

全ての領域で全国平均を下回っています。「数と式」、「図形」、「関数」領域では、全国平均との差が大きくなっており、また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均と同等になっていますが、説明することや、事象が成り立たなくなることを読み取る問題では、無解答率は低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 関数」の領域の、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に取り出し、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題や、「D データの活用」の領域の四分位数の意味の理解をみる問題の正答率が全国平均を上回っていました。

しかしながら、「A 数と式」の領域で反比例の式の理解や、「C 関数」の領域の直線のグラフから事象に即して解釈する問題の正答率が全国平均を下回っていました。

今後、関数領域では、グラフの特徴を理解することや、グラフが表している意味を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

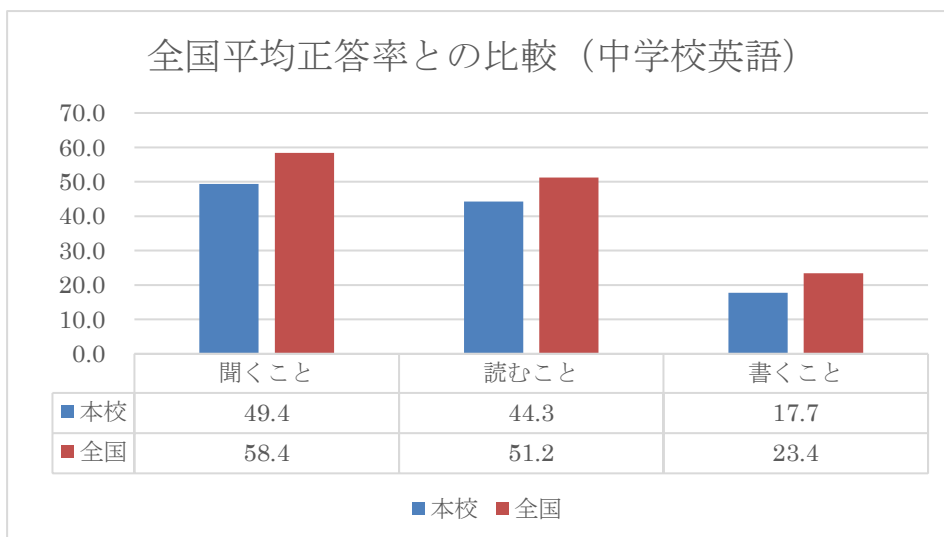
【学校では】

- 与えられた資料から必要な情報を適切に取り出すことや、問題解決の方法を数学的に説明する場面を、日々の授業で設定します。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式やことばを使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT指導、プリントやワークの活用、週末課題、小テストや単元テストなど、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの週末課題などの宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学が好きになるには、解ける喜びを感じさせることが有効です。簡単な問題から取り組み、成功体験を増やしていくことで興味関心が向上することが考えられます。また、積み重ねも必要な教科ですので、短時間でも毎日継続して、問題集などの課題に取り組むことも大切です。

3 英語



(1) 結果

全ての領域で全国平均を大きく下回っています。「書くこと」「読むこと」に比べ、「聞くこと」の対全国比が低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「聞くこと」の領域の日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を 19.6 ポイント下回っていました。また、「読むこと」の領域の文と文の関係を正確に読み取ることが得るかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を 11.6 ポイント下回っており、課題が見られました。また、「読むこと」の領域の日常的な話題について短い文章の概要をとらえることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均正答率を 1.2 ポイント上回っていました。

日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を正確に聞き取るためには、話されること全てを聞き取ろうとするのではなく、話されている状況や、その背景を考え、何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにします。
- 読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。
- 学習用パソコンを活用し、得た情報をもとに、自分の考えや意見を英文にまとめる活動を多く取り入れます。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。英語への関心が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等をご活用ください。（文部科学省のホームページでもたくさん紹介されています。）

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	79.6%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	39.3%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	60.2%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	37.8%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	36.7%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	78.6%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	83.2%	80.3%

将来の夢や目標を持つことは全国平均を下回っています。家庭と学校で協力して将来のことに関心をもつことに力をいれていきたいところです。朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることができています。自己肯定感や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	12.8%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.1%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.9%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	33.2%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	23.5%	18.0%
「30分より少ない」	12.2%	9.9%
「全くしない」	4.6%	6.0%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の生徒が4割以上おり、かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するよう指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- いじめのない学校づくりのために、生徒の心を耕す教育を進めていきます。生活アンケート等を通して、生徒が相談しやすい環境をつくっていきます。また、生徒会を中心としたいじめ防止への取組は、生徒の意識向上につながっているので、今後も継続して行っていきます。
- 家庭学習習慣を定着させるために、毎日1ページ以上の自主的な学習を行う「1Pノート」(自主学習ノート)への取り組み方について学級担任を中心として丁寧に指導していきます。

【ご家庭では】

- 学校からの各種便りなどをご覧になり、お子さんとの会話に学校の話題を増やしていただく。将来についての話題も触れて頂けたら良いと思います。
- 起床、食事、就寝の時間が決まると、生活のリズムが整います。規則正しい生活に向けてお子さんへの声かけをお願いします。家庭での学習時間の確保のために、スマートフォンやSNS等の使い方や使用時間についても、お子さんとお話し合ってください。